

不活性ガス（窒素）消火設備点検

- 1、 点 検 場 所 管理混合教室棟 3階全域
- 2、 点 検 期 間 点検は1年に2回。総合点検1年に1回、機器点検は半年に1回とする。
また、3年に1回は消防機関へ点検結果報告書を提出すること。
- 3、 点 検 資 格 者 消防設備点検資格者：1種・2種又は消防設備士：甲種3類
- 4、 点 検 内 容 消防用設備等の機器の適正な設置、損傷などの有無、そのほか主として
外観から判断できる事項および機器の機能について簡易な操作により判
別できる事項を消防用設備等の種類などに応じ、告示に定める基準に従
い確認し報告すること。
添付の消防用設備等（特殊消防用設備等）点検者一覧表・点検結果総括表
点検結果報告書に記載し提出する。

※点検要領注意事項

1. 添付の点検基準を基に適正に点検を実施すること
別表第6 不活性ガス消火設備の点検の基準
別表第26 配線の点検基準
 2. 消火薬剤量の測定は下記ア、又はイによること
ア) 秤による重量測定（秤は校正されたものを使用すること）
イ) 容器内圧力による測定（適合する圧力計を使用すること）
 3. 放射試験について放射に用いるガス量は放射を行う区画の10%
相当以上とすること。又試験用のガス容器は、設置貯蔵容器と
同一機構の容器弁を使用したものを用意すること。
- 5、 維 持 管 理 修繕箇所の発生、メンテナンスの必要事項、耐用年数による更新等
必要な場合は、見積書等で提出する。
 - 6、 設 置 年 月 2024年3月（竣工）

7、 消火設備図 不活性ガス（窒素）消火設備 凡例・系統図
3階 不活性ガス（窒素）消火設備平面図

8、 参 考 数 量	窒素ガスボンベ (消火剤量 83.0L×20.3m ³)	10 本
	窒素容器弁	10 個
	減圧弁	10 個
	噴射ヘッド（露出型）	17 個
	窒素ガス制御盤	1 面
	窒素ガス警報盤（1階：事務室）	1 面
	非常電源装置	1 台
	選択弁（65A×2個、50A×4個、40A×1個）	7 個
	リリース弁	1 個
	安全栓	2 個
	起動容器箱（容器弁、起動用ガス容器：1L 容器弁開放器、圧力スイッチ	7 組
	放出表示灯	7 個
	スピーカー	7 個
	手動起動装置	7 個
	定温式スポット型感知器	15 個
	光電式スポット型感知器	13 個

別表第6 不活性ガス消火設備の点検の基準

1 機器点検

次の事項について確認すること。

(1) 消火剤貯蔵容器等

ア 消火剤貯蔵容器

(ア) 周囲の状況

防護区画以外の場所に設置されており、周囲の温度、湿度等が著しく高くなく、かつ、直射日光、雨水等がかかるとおそれがないこと。

(イ) 外形

変形、損傷、著しい腐食等がなく、容器本体は取付枠に確実に固定されていること。

(ウ) 表示及び標識

適正に設けられていること。

イ 高圧式（常温で貯蔵するものに限る。）

(ア) 消火剤量

規定量以上貯蔵されていること。

(イ) 容器弁

a 外形

変形、損傷、著しい腐食等がないこと。

b 安全性

容器弁の外形の点検において容器弁に異常が認められたものにあつては当該点検後速やかに、その他のもののうち、二酸化炭素を消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 25 年を経過するまでの間に、二酸化炭素以外のものを消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に次の事項について実施すること。この場合において、二酸化炭素を消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 25 年を経過するまでの間に、二酸化炭素以外のものを消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に実施する場合（容器弁の外形の点検において容器弁に異常が認められたものについて当該点検後速やかに実施する場合を除く。）にあつては、抜取り方式により耐圧性能及び気密性能に係る点検を行うことができる。

(a) 外観

容器本体から取り外した容器弁に変形、損傷、著しい腐食等がないこと。

(b) 構造、形状及び寸法

設計図書に記載された構造、形状及び寸法と同一であること。

(c) 耐圧性能

所定の水圧をかけた場合において、漏れ、変形等がないこと。

(d) 気密性能

所定の圧力をかけた場合において、漏れ等がないこと。

(e) 表示

適正であること。

(ウ) 安全装置（容器弁に設けられたものに限る。）

a 外形

変形、損傷、著しい腐食等がないこと。

b 安全性

安全装置の外形の点検において安全装置に異常が認められたものにあつては当該点

検後速やかに、その他のもののうち、二酸化炭素を消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 25 年を経過するまでの間に、二酸化炭素以外のものを消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に次の事項について実施すること。この場合において、二酸化炭素を消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 25 年を経過するまでの間に、二酸化炭素以外のものを消火剤として用いるものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に実施する場合（容器弁の外形の点検において容器弁に異常が認められたものについて当該点検後速やかに実施する場合を除く。）にあつては、抜取り方式により耐圧性能、気密性能及び安全装置の作動に係る点検を行うことができる。

- (a) 外観
容器本体から取り外した安全装置に変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
- (b) 構造、形状及び寸法
設計図書に記載された構造、形状及び寸法と同一であること。
- (c) 耐圧性能
所定の水压をかけた場合において、漏れ、変形等がないこと。
- (d) 気密性能
所定の圧力をかけた場合において、漏れ等がないこと。
- (e) 安全装置の作動
安全装置のうち、封板式のものにあつては作動圧力、溶栓式のものにあつては作動温度、封板溶栓式のものにあつては作動圧力及び作動温度並びに安全弁にあつては作動圧力が適正であること。
- (f) 表示
適正であること。
- (エ) 容器弁開放装置
 - a 外形
変形、損傷、脱落等がないこと。
 - b 電気式の容器弁開放装置
端子の緩み、破開針の変形、損傷等がなく、確実に作動すること。
 - c ガス圧式の容器弁開放装置
ピストンロッド及び破開針に変形、損傷等がなく、確実に作動すること。
- ウ 低圧式（二酸化炭素を低温で貯蔵するものに限る。）
 - (ア) 消火剤量
規定量以上貯蔵されていること。
 - (イ) 液面計及び圧力計
変形、損傷等がなく、正常に作動すること。
 - (ウ) 圧力警報装置及び安全装置等
変形、損傷等がなく、作動圧力値が適正で、かつ、機能が正常であること。
 - (エ) 自動冷凍機
変形、損傷、著しい腐食等がなく、作動温度が適正で、かつ、機能が正常であること。
 - (オ) 放出弁
変形、損傷、締付部の緩み等がなく、機能が正常であること。
 - (カ) 放出弁開放装置
 - a 外形

- 変形、損傷、脱落等がないこと。
- b 電気式の放出弁開放装置
端子の緩み、損傷等がなく、確実に作動すること。
- c ガス圧式の放出弁開放装置
ピストンロッド及び破開針に変形、損傷等がなく、確実に作動すること。
- (キ) バルブ類
変形、損傷等がなく、開閉位置が正常で、かつ、開閉操作が容易にできること。
- エ 連結管及び集合管
変形、損傷、著しい腐食等がなく、かつ、接続部の緩み等がないこと。
- (2) 起動用ガス容器等
 - ア 起動用ガス容器
 - (ア) 外形
変形、損傷、著しい腐食等がなく、容器収納箱に設けられているものにあつては、扉の開閉が確実にできること。
 - (イ) 表示
適正に設けられていること。
 - イ ガス量
規定量以上貯蔵されていること。
 - ウ 容器弁
 - (ア) 外形
変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
 - (イ) 安全性
容器弁の外形の点検において容器弁に異常が認められたものにあつては当該点検後速やかに、その他のものにあつては設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に、次の事項について実施すること。この場合において、設置後又は容器弁の安全性の点検の実施後 30 年を経過するまでの間に実施する場合(容器弁の外形の点検において容器弁に異常が認められたものについて当該点検後速やかに実施する場合を除く。)にあつては、抜取り方式により耐圧性能及び気密性能に係る点検を行うことができる。
 - a 外観
容器本体から取り外した容器弁に変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
 - b 構造、形状及び寸法
設計図書に記載された構造、形状及び寸法と同一であること。
 - c 耐圧性能
所定の水圧をかけた場合において、漏れ、変形等がないこと。
 - d 気密性能
所定の圧力をかけた場合において、漏れ等がないこと。
 - e 表示
適正であること。
- エ 安全装置(容器弁に設けられたものに限る。)
 - (ア) 外形
変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
 - (イ) 安全性
安全装置の外形の点検において安全装置に異常が認められたものにあつては当該点検後速やかに、その他のものにあつては設置後又は安全装置の安全性の点検の実施後

30年を経過するまでの間に、次の事項について実施すること。この場合において、設置後又は安全装置の安全性の点検の実施後30年を経過するまでの間に実施する場合（安全装置の外形の点検において安全装置に異常が認められたものについて当該点検後速やかに実施する場合を除く。）にあつては、抜取り方式により耐圧性能、気密性能及び安全装置の作動に係る点検を行うことができる。

- a 外観
容器本体から取り外した安全装置に変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
- b 構造、形状及び寸法
設計図書に記載された構造、形状及び寸法と同一であること。
- c 耐圧性能
所定の水圧をかけた場合において、漏れ、変形等がないこと。
- d 気密性能
所定の圧力をかけた場合において、漏れ等がないこと。
- e 安全装置の作動
安全装置のうち、封板式のものにあつては作動圧力、溶栓式のものにあつては作動温度、溶栓封板式のものにあつては作動圧力及び作動温度並びに安全弁にあつては作動圧力が適正であること。
- f 表示
適正であること。

オ 容器弁開放装置

- (ア) 外形
変形、損傷、脱落等がないこと。
- (イ) 電気式の容器弁開放装置
端子の緩み、破開針の変形、損傷等がなく、確実に作動すること。
- (ウ) 手動式の容器弁開放装置
ピストンロッド及び破開針の変形、損傷等がなく、確実に作動すること。

(3) 選択弁

ア 本体

- (ア) 外形
変形、損傷、締付部の緩み等がないこと。
- (イ) 表示
適正であること。
- (ウ) 機能
正常であること。

イ 開放装置

- (ア) 外形
変形、損傷、脱落等がないこと。
- (イ) 電気式の開放装置
端子の緩み等がなく、確実に作動すること。
- (ウ) ガス圧式の開放装置
ピストンロッド等の変形、損傷等がなく、確実に作動すること。

(4) 操作管及び逆止弁

ア 外形

変形、損傷、接続部の緩み等がなく、取付位置及び方向等が適正であること。

イ 機能

- 正常であること。
- (5) **起動装置**
- ア 手動式起動装置
- (ア) 周囲の状況
操作箱の周囲に使用上及び点検上の障害となるものがないこと。
- (イ) 操作箱
変形、損傷、著しい腐食等がなく、確実に固定され、かつ、扉の開閉が容易にできること。
- (ウ) 表示
適正であること。
- (エ) 電源表示灯
正常に点灯していること。
- (オ) 音響警報起動用スイッチ
変形、損傷、端子の緩み、脱落等がなく、機能が正常であること。
- (カ) 放出用スイッチ及び非常停止用スイッチ
変形、損傷、端子の緩み、脱落等がなく、機能が正常であること。
- (キ) 表示灯
正常に点灯すること。
- (ク) 保護カバー
有機ガラス等による保護措置に変形、損傷、脱落等がないこと。
- イ 自動式起動装置
- (ア) 火災感知装置
自動火災報知設備の機器点検の基準に準じた事項に適合していること。
- (イ) 自動・手動切替装置
変形、損傷、脱落等がなく、切替位置及び切替機能が正常であること。
- (ウ) 自動・手動切替表示灯
正常に点灯すること。
- (6) **警報装置**
- ア 外形
変形、損傷、脱落等がないこと。
- イ 音響警報
正常に鳴動し、その音圧が適正であること。
- ウ 音声警報
正常に鳴動し、その音圧が適正で、かつ、起動したときに注意音を発し、その後音声を発すること。
- (7) **制御盤**
- ア 周囲の状況
周囲に使用上及び点検上の障害となるものがないこと。
- イ 外形
変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
- ウ 表示
適正であること。
- エ 電圧計
変形、損傷等がなく、指示値が適正であること。
- オ 開閉器及びスイッチ類

変形、損傷、脱落、端子の緩み等がなく、開閉位置が正常で、かつ、開閉機能が正常であること。

- カ ヒューズ類
損傷、溶断等がなく、所定の種類及び容量のものが使用されていること。
- キ 継電器
脱落、端子の緩み、接点の焼損、ほこりの付着等がなく、機能が正常であること。
- ク 表示灯
正常に点灯すること。
- ケ 結線接続
断線、端子の緩み、脱落、損傷等がないこと。
- コ 接地
著しい腐食、断線等がないこと。
- サ 遅延装置
設定が適正であること。
- シ 自動・手動切替機能
正常であること。
- ス 放出制御機能
正常であること。
- セ 制御盤用音響警報装置
機能が正常であること。
- ソ 予備品等
予備品及び回路図等が備えてあること。
- (8) **配管等**
 - ア 管及び管継手
損傷、著しい腐食等がなく、他のものの支え、つり等に利用されていないこと。
 - イ 支持金具及びつり金具
脱落、曲がり、緩み等がないこと。
 - ウ 閉止弁（二酸化炭素を放射する不活性ガス消火設備に限る。）
変形、損傷、著しい腐食等がなく、開閉位置が正常で、かつ、開閉操作が容易にできること。
- (9) **配管の安全装置等**
 - ア 安全装置
放出口のつまり等がないこと。
 - イ 破壊板
変形、損傷、脱落等がないこと。
- (10) **消火剤等排出措置**
適正な位置に設けてあること。
- (11) **圧力上昇防止措置**
適正に設けられ、機能が正常であること。
- (12) **放出表示灯**
適正な位置に設けられ、変形、損傷、脱落等がなく、かつ、正常に点灯すること。
- (13) **噴射ヘッド**
 - ア 外形
変形、損傷、著しい腐食、つまり等がないこと。
 - イ 放射障害

- 周囲に放射障害となるものがないこと。
- (14) **防護区画**
- ア 区画変更等
防護区画及び開口部面積の変更がないこと。
 - イ 開口部の自動閉鎖装置
 - (ア) 外形
変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
 - (イ) 電気で作動するもの
端子の緩み等がなく、機能が正常であること。
 - (ウ) ガス圧で作動するもの
機能が正常であること。
- (15) **防護区画に隣接する部分の保安措置（二酸化炭素を放射する不活性ガス消火設備に限る。）**
- ア 設定範囲
適正に定められていること。
 - イ 保安措置
 - (ア) 消火剤排出措置
適正な位置に設けてあること。
 - (イ) 放出表示灯
適正な位置に設けられ、変形、損傷、脱落等がなく、かつ、正常に点灯すること。
 - (ウ) 警報装置
 - a 外形
変形、損傷、脱落等がないこと。
 - b 音響警報
正常に鳴動し、その音圧が適正であること。
 - c 音声警報
正常に鳴動し、その音圧が適正で、かつ、起動したときに必ず注意音を発した後、音声を発すること。
 - (エ) 注意銘板
適正な位置に設けられ、損傷、脱落、汚損等がないこと。
- (16) **非常電源（内蔵型のものに限る。）**
- ア 外形
変形、損傷、著しい腐食等がないこと。
 - イ 表示
適正であること。
 - ウ 端子電圧
規定値の範囲内であること。
 - エ 切替装置
常用電源を停電状態にしたときに自動的に非常電源に切り替わり、常用電源を復旧したときに自動的に常用電源に切り替わること。
 - オ 充電装置
変形、損傷、著しい腐食等がなく、異常な発熱等がないこと。
 - カ 結線接続
変形、損傷、緩み、著しい腐食、焼損等がないこと。
- (17) **ホース、ホースリール、ノズル及びノズル開閉弁**
- ア 周囲の状況

周囲に使用上及び点検上の障害となるものがないこと。

- イ 格納箱
変形、損傷、著しい腐食等がなく、扉の開閉が容易にできること。
 - ウ ホース
変形、損傷、老化、接続部の緩み等がなく、所定の長さのものであること。
 - エ ホースリール
ホースの引出し、格納等が容易にできること。
 - オ ノズル
著しい腐食、つまり等がなく、危害防止のための措置がされていること。
 - カ ノズル開閉弁
開閉操作が容易にできること。
- (18) **表示灯及び標識（移動式に限る。）**
適正に設けられていること。
- (19) **耐震措置**
アンカーボルト、可とう管継手等に変形、損傷、著しい腐食等がなく、耐震措置が適正に行われていること。

2 総合点検

(1) 全域放出方式及び局所放出方式

非常電源に切り替えた状態で起動させ、次の事項について確認すること。

- ア 全域放出方式
 - (ア) 警報装置
確実に鳴動すること。
 - (イ) 遅延装置
確実に作動すること。
 - (ウ) 開口部の自動閉鎖装置等
正常に作動し、換気装置が確実に停止すること。
 - (エ) 起動装置及び選択弁
確実に作動し、試験用ガスが放射されること。
 - (オ) 配管及び配管接続部
通気状態で漏れがないこと。
 - (カ) 放出表示灯
正常に点灯すること。
 - イ 局所放出方式
 - (ア) 警報装置
確実に鳴動すること。
 - (イ) 起動装置及び選択弁
確実に作動し、試験用ガスが放射されること。
 - (ウ) 配管及び配管接続部
通気状態で漏れがないこと。
- (2) **移動式**
手動式起動操作部の操作により起動させ、次の事項について確認すること。
- ア ノズル開閉弁
異常がなく、試験用ガスが放射されること。

- イ ホース及びホース接続部
試験用ガスの漏れがないこと。

別表第 26 配線の点検の基準

総合点検

次の事項について確認すること。

(1) 専用回路

ア 消防用設備等専用である旨の表示があること。

イ 消防用設備等への配線の途中で他の負荷のための配線を分岐させていないこと。ただし、消防法施行規則（昭和 36 年自治省令第 6 号）第 25 条第 3 項第 4 号イただし書に規定する火災通報装置又は火災通報装置の基準（平成 8 年消防庁告示第 1 号）第 3 第 16 号の規定により I P 電話回線を使用する火災通報装置に係る回線終端装置等であつて、その電源が、分電盤との間に開閉器が設けられていない配線からとられており、かつ、当該配線の接続部が、振動又は衝撃により容易に緩まないように措置されている場合は、この限りでない。

(2) 開閉器及び遮断器

損傷、過熱、接続部の緩み、変色等がないこと。

(3) ヒューズ類

損傷、溶断等がなく、所定の種類及び容量のものが使用されていること。

(4) 絶縁抵抗

回路の絶縁抵抗値が適正であること。

(5) 耐熱保護

耐熱保護部分は、損傷、脱落等がないこと。

別記様式第6

(その1)

不活性ガス（二酸化炭素、窒素、IG-55、IG-541）消火設備点検票(区画名：)
 (設備方式：全域・局所・移動)

名称			防火 管理者			
所在			立会者			
点検種別	機器・総合	点検年月日	年 月 日～ 年 月 日			
点検者	氏名		点検者 所属会社	社名	TEL	
				住所		
点検項目		点検結果			措置内容	
		種別・容量等の内容	判定	不良内容		
機 器 点 検						
消 火 剤 貯 蔵 容 器 等	消 貯 蔵 容 器 貯 蔵 容 器	周囲の状況				
		外形				
		表示・標識				
	高 圧 貯 蔵 式	※ 消火剤量		本		
		容 器 弁	外形			
			安全性			
		安 全 装 置	外形			
			安全性			
		容 器 弁 開 放 装 置	外形			
	電気式 ガス圧式					
	低 圧 貯 蔵 式	消火剤量		kg		
		液面計・圧力計				
		圧力警報装置・安全装置等				
		自動冷凍機				
放 出 弁						
放 出 弁 開 放 装 置		外形				
	電気式 ガス圧式					
バルブ類						
連結管・集合管						
起 動 用 ガ ス 容 器 等	起 動 用 ガ ス 容 器	外形				
		表示				
	※ ガス量		本			
	容 器 弁	外形				
		安全性				
	安 全 装 置	外形				
		安全性				
	容 器 弁 開 放 装 置	外形				
電気式 手動式						

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 3 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 4 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 5 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。
 6 ※印のあるものは、(その5)に容器ごとの点検結果を記入すること。

別記様式第6

不活性ガス消火設備（その2）

選択 弁	本体	外形					
		表示					
		機能					
	開放装置	外形					
		電気式					
		ガス圧式					
操作管・逆止弁	外形						
	機能						
標識							
起 動 装 置	手動式 起動装置	周囲の状況					
		操作箱					
		表示					
		電源表示灯					
		音響警報起動用スイッチ					
		放出用・非常停止用スイッチ					
		表示灯					
	保護カバー						
	自動式 起動装置	火災感知装置	専用	兼用			
		自動・手動切替装置					
自動・手動切替表示灯							
AND回路制御機能							
緊急停止装置							
警報装置	外形						
	音響警報						
	音声警報						
制 御 盤	周囲の状況						
	外形						
	表示						
	電圧計		V				
	開閉器・スイッチ類						
	ヒューズ類		A				
	継電器						
	表示灯						
	結線接続						
	接地						
	遅延装置		秒				
	自動・手動切替機能						
	放出制御機能						
制御盤用音響警報装置							
予備品等							

- 備考
- この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 - 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 - 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 - 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

別記様式第6

不活性ガス消火設備（その3）

配管等	管・管継手					
	支持金具・つり金具					
	閉止弁	外形				
機能						
配管の安全装置等	安全装置					
	破壊板					
消火剤等排出措置						
圧力上昇防止措置						
放出表示灯						
噴射ヘッド	外形					
	放射障害					
防護区画	区画変更等					
	開口部の自動閉鎖装置	外形				
		電気で作動するもの				
		ガス圧で作動するもの				
防部分区画に隣接する措置	設定範囲					
	保安措置	消火剤排出措置				
		放出表示灯				
	警報装置	外形				
		音響警報				
	音声警報					
注意銘板						
非常電源（内蔵型）	外形					
	表示					
	端子電圧		V			
	切替装置					
	充電装置					
	結線接続					
ホース等	周囲の状況					
	格納箱					
	ホース			m		
	ホースリール					
	ノズル					
	ノズル開閉弁					
表示灯・標識（移動式）						
耐震措置						

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 2 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
- 3 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
- 4 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
- 5 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

総 合 点 検								
全域放出方式・局所放出方式	全域放出方式	警 報 装 置						
		遅 延 装 置		秒				
		開口部の自動閉鎖装置等						
		起動装置・選択弁						
		配管・配管接続部						
		放 出 表 示 灯						
	局所放出方式	警 報 装 置						
		起動装置・選択弁						
		配管・配管接続部						
移動式	ノズル開閉弁							
	ホース・ホース接続部							
備 考								
測 定 機 器	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名	機 器 名	型 式	校正年月日	製造者名

- 備考
- 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 - 2 種別・容量等の内容欄は、該当するものについて記入すること。
 - 3 判定欄は、正常の場合は○印、不良の場合は×印を記入し、不良内容欄にその内容を記入すること。
 - 4 選択肢のある欄は、該当事項に○印を付すこと。
 - 5 措置内容欄には、点検の際措置した内容を記入すること。

